



# 自然観察

No.101  
2012.3月

## 目次

・総会議案書案（概要）	2011年度事業報告	2
	2012年度事業計画（案）	4
・観察会連絡係の皆様へ		5
・北海道自然観察協議会会則		6
・2012年総会・講演会・懇親会のお知らせ		7
・2011年度講演会&忘年会報告		8
・蝶の採集と保護(2)		11
・フィールドニュース せたな町、名寄市		12
・ウォッチングレポート		13
・参加者の声		14
・会計からのお願い		15
・事務局だより・理事会だより・連絡先		16



チョウジソウ 花川南防風林 2009.6.15

# 2011年度事業報告

## 1. 観察会実施状況中間報告

### (1) 一般観察会について

2011年度の観察会は、滝野の集いを除き、52回開催が予定され、7回開催の中止を除き現在(2/20)まで41回開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の7回開催を除く34回開催について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ385名(うち年代記載者358)

参加指導員数 延べ129名

年代別参加者数では年代記載者358名中60代が158名と、およそ半数を占めています。

以下50代72名、70代61名となっています。

最終集計は4月の総会で報告、及び会報102号に掲載します。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

### (2) 滝野の自然に親しむ集い(第22回)について

場所: 滝野自然学園・滝野すずらん公園

実施日: 8月6日(土)~7日(日)

参加料: 4,000円(指導員同額)

参加者: 一般3名(子ども2名、大人1名)・指導員12名、計15名

## 2. 指導員研修について

### (1) 全道研修会

テーマ: 「7月の道東、北太平洋シーサイドライン、霧多布湿原を歩く」

実施日: 7月6日(水)~7日(木)

場所: アヤメが原 霧多布湿原 愛冠岬 北大アイカップ自然史博物館 厚岸水鳥館 糸魚沢林道

講師・ガイド: 厚岸町海事記念館 熊崎農夫博氏、霧多布湿原センターガイド 阪野真人氏

参加人数: 18名

宿泊: 道立厚岸少年自然の家

### (2) 地方研修会

①テーマ: 「突哨山でコウモリと森のウォッチング」 in 旭川

実施日: 8月13日(土) 午後4時~9時

場所: 旭川市突哨山

講師: オサラッペ・コウモリ研究所の出羽寛氏(旭川大名誉教授)、清水省吾氏など

参加人数: 13名

②テーマ: 「樹木医と歩く円山公園」 in 札幌

実施日: 9月4日(日) 午前10時~12時

場所: 札幌市円山公園

講師: 樹木医 田淵美也子氏

参加者人数: 8名

財団法人札幌市公園緑化協会共催

## 3. 第449回NACS-J自然観察指導員講習会 北海道

場所: 恵庭市恵庭青少年研修センター

実施日: 6月17日(金)~19日(日)

後援: 北海道、北海道教育委員会、恵庭市、恵庭市教育委員会

入会者数: 22名

## 4. 会報発行について

99号(6/15)、100号(11/15)、101号(12/3/15)

9月15日発行の100号は部長入院のため休刊し、次期発行の11月に発行しましたので、3回の発行となりました。

## 5. 組織の状況

2月末現在で会員数 329名

## 6. 理事会・部会・事務局関係

### (1) 総会・講演会

総会 2011年4月9日(土) 午後1時~2時半

札幌エルプラザ2階環境研修室1・2

講演会 4月9日(土) 午後3時~4時半

札幌エルプラザ2階環境研修室1・2

演題: 「森を生かす、人とつなぐ」

講師: 山本 牧 氏(NPO もりねっと理事)

参加人数: 52名

### (2) 理事会・各部会・委員会

理事会 6/3、8/1、10/4、12/1/11、2/2、4/15

編集部会 5/24、6/7、6/14、9/6、9/13、9/30、10/25、11/8、11/15、12/2/24、3/6、3/13

### (3) 事務局動向

環境道民会議総会出席、北海道高山植物保護ネット総会出席

### (4) 講演会&忘年会

11月26日(土)

講演会 午後3時~5時

札幌エルプラザ3階音楽スタジオ1

「シマアオジと台湾の鳥」 渡邊 智子氏

「川の生物」 酒井 健司氏

「放射性物質とは?」 山田 <sup>ひろくに</sup>大邦氏

参加人数: 20名

忘年会 午後5時~7時 「高田屋」

(5) 救急救命講習会

2012年2月4日(土) 午前10時～午後4時  
かでの2・7会議室 920

講師：日本赤十字北海道支社(応急処置)、  
財北海道防災協会(AED・心肺蘇生)

参加人数：12名

(6) 北海道自然観察協議会のホームページ  
観察会予定、観察会報告など随時更新

HPアドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

(7) 会員情報配信(メーリングリスト)

(11/6/1 理事会承認)

(8) 観察会の広報

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、地元新聞、おしゃべりからず、オントナ、自然ウオッチングセンター「ウオッチングガイド」、北海道環境生活部環境室環境政策課、札幌市環境局環境都市推進部推進課「えこぼろ」、北海道環境サポートセンター・「メールニュース環境★ナビ北海道」

7. 他機関との連帯、交流

(1) 講師派遣

- ・NTT 環境保護自然観察レク:8月7日(日) 滝野すずらん丘陵公園 講師3名(滝野の集い参加講師)
- ・第36回江別市私立幼稚園連合会教諭研修会:8月20日(土) 野幌森林公園 講師6名
- ・みつびしでんき野外教室:9月10日(土) 野幌森林公園 講師4名

(2) 共催・後援

- ・端野町歴史民族資料館・たんのカタクリと森の会共催:5/3～5/6
- ・カタクリの森観察会 たんのカタクリと森の会共催:6/25、8/27
- ・札幌市教育委員会後援:滝野の自然に親しむ集い」8/6～8/7
- ・「北大構内親子雪氷観察会」12/1/9
- ・北海道・北海道教育委員会・恵庭市・恵庭市教育委員会:第49回NACS-J自然観察指導員講習会北海道 6/17～6/19
- ・財団法人札幌市公園緑化協会共催:9/4 円山公園地方研修会

【備品・分野別ガイド】☆観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンファーマ ブルミニ	2台	根岸徹 札幌市 Tel 011-891-0556
タモ網	27本	同上
大型旗 (120×180)	1枚	畑中嘉輔 札幌市 Tel 011-581-5439
小型旗 (35×43)	3枚	須田節 札幌市 Tel 011-752-7217
ポール(折りたたみ式)	3本	同上
トリプル バグビューアー	5台	山形誠一 札幌市 Tel 011-551-5481
ルーペ	5個	後藤言行 小樽市 Tel 0134-29-3338
	3個	山形誠一 札幌市 Tel 011-551-5481

☆分野別ガイド

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答して下さる方々です。

豊平川水系 水生昆虫、魚類

根岸徹 011-891-0556  
004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条5丁目2-27

昆虫(甲虫)

堀繁久 011-571-2146  
005-0832 札幌市南区北の沢2丁目20-18

森林動物(熊)

山本牧 0166-34-5525  
078-8350 旭川市東光10条8丁目2-6

植物全般

与那覇モト子 0133-74-7952  
061-3211 石狩市花川北1条2丁目148  
(分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局へ連絡をお願いいたします。)

# 2012年度事業計画(案)

## 1. 観察会の開催について

- (1) 今年度の観察会実施計画は別表「2012年度自然観察会予定表(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)今回掲載以外に企画があれば観察部山形誠一(札幌市中央区)へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- (2) 各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び2012年度観察予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- (3) 観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川祐美(小樽市)へ送付してください。振り込み用紙を利用する場合は会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。  
口座番号：2770-9-34461  
(通常払込加入者負担の用紙)  
加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料
- (4) 各観察会で作成・使用した資料を収集して

- います。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力ください。
- (5) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
  - (6) 観察部では備品の充実をはかって行きたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。

## 2. 「第23回 滝野の自然に親しむ集い」について

日時：8月11日～8月12日  
滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部の各1名選出)を組織して実施予定です。滝野自然学園で開催します。

## 3. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、一泊二日以上は該当しません。

### 【観察会事故緊急連絡】

事務局へ連絡をお願いします。

保険会社(代理店)：アスカ・リスクマネジメント Te1011-873-2655  
日曜、祝日休業  
普通傷害保険(エース損害保険株式会社)  
死亡保険：500万円  
入院保険金額：5,000円(180日以内) 日額  
通院保険金額：2,500円(90日以内) 日額

## 4. 指導員研修について

- (1) 全道研修会 日時：6月9日(土)～10日(日)  
場所：静狩湿原、福島町  
テーマ：「静狩湿原と北海道南西・南端の植物」
- (2) 地方研修会  
①旭川市 日時・場所・テーマ未定  
②札幌市 春(6月下旬予定)秋の2回・場所未定・テーマ「アイヌ民族の伝統文化を学ぼう」

## 5. 会報発行について

102号6月/、103号9月/、104号11月/、105号2013年3月  
事務局ほか各部などの最終締め切りは発行日の25日前とします。同封書類がある場合

は事前打ち合わせ、発送作業の手伝いをお願いいたします。

## 6. その他

- ・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制作りを検討していきたいと考えています。
- ・事業および観察会の予定や実施状況は会報及び北海道自然観察協議会のHPでお知らせします。<http://noc-hokkaido.org/>
- ・会員用メーリングリスト会報の掲載に間に合わないお知らせや地域の情報などを、会員の皆様へ情報配信をします。

☆注意 このメールは、事務局発信専用で、このメールに対する返信は事務局のみに配信されます。リストアドレスへ発信したメールは、サーバーにより消去されてどこへも届きません。

### <講師派遣依頼について>

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

札幌市南区民センター（春・秋）講師派遣各2名

江別市私立幼稚園連合会教諭研修会

7/24 講師派遣8名

### <総会・講演会>

日時：2013年4月14日（日）（第3日曜日）

場所：札幌エルプラザ2階環境プラザ研修室  
1.2

### <理事会>

6月、8月、10月、13年1月、2013年2月、4月

### <講演会&忘年会>

日時：11月17日（土）

講演会 午後3時～5時

忘年会 午後5時～7時

場所：札幌エルプラザ2階環境プラザ研修室&忘年会会場

### <救急救命講習会>

責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

日時：2013年2月3日（日）

場所：かでの2・7

講師：札幌市防災協会、日本赤十字社北海道支部

会員以外からも受講者を募ります。事務局へお問い合わせください。

### <北海道フラスオン2012>

5年ごとに北海道全域で行われる植物一斉調査で、「北海道フラスオン2012」が開催されます。6月16日（土）・17日（日）の2日間、北海道全域で野の花の一斉調査をします。野草に関心のある方なら誰でも参加できます。複数チーム作っているいろいろな場所でやってみませんか。関心のある方は事務局へお知らせください。雨天決行

### <個人情報保護法について>

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報は、観察会活動の目的以外には利用いたしません。また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。会員名簿は外部に流出しないようにお願いします。

### <観察会カードについて>

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」の無料配布（送料発注者負担）を継続中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

## 観察会連絡係の皆様へ

日頃皆様には、観察会の企画・運営等、大変お世話になっておりますが、来年度より、「観察会報告」に関して、従来の郵送に加え、メール、FAXによる報告も受け付けたいと考えております。

特にメールによる報告は、諸費用および事務処理の効率化に大きな効果があると思われま

す。メールによる報告を了解される方は、会報の裏表紙にあります観察部・山形のメール宛ご一報ください。エクセルによる観察会用の「一般参加者名簿」、「指導員用名簿・報告書」ファイルをお送りいたします。

また、現在「観察会の反省・報告」は390字の体裁となっておりますが、字数にこだわらず出来るだけ簡略にお願いいたします。

皆様のご協力をお願いいたします。

観察部

## 北海道自然観察協議会会則

### 第 1 条 名称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

### 第 2 条 目的

自然をとらとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

### 第 3 条 事業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 自然観察会等の育成指導
2. 会員の資質の向上を図るための研修会等の開催
3. 会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための行事の開催
4. 会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報の発行
5. その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力

### 第 4 条 会員

この会の会員は、(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

### 第 5 条 組織

1. 会の運営のため、事務局をおき、総務、広報、会計をおく。
2. 会の事業遂行のため、観察部、研修部、編集部をおく。

### 第 6 条 役員

1. この会に次の役員をおく。
  - (1) 理事 30名以内 会の運営、事業の執行等について審議し、議決に基づき実行する。
  - (2) 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
2. 理事および監事は総会において選出する。
3. 役員任期は2年とし、再任は妨げない。

### 第 7 条 役員職務

1. この会の役員職務は次の通りとする。
  - (1) 会長 1名 会を代表する。
  - (2) 副会長 若干名 会長を補佐し、会長に事故ある時は会長職務を代行する。
  - (3) 事務局長 1名 会の事務一般をまとめる。
  - (4) 部長 3名 各部に関する業務を行う。
  - (5) 総務 若干名 対外折衝等に関する業務を行う。
  - (6) 広報 若干名 事業に関する広報を行う。
  - (7) 会計 若干名 会計に関する業務を行う。
2. 上記の役員は理事の互選により選出する。
3. 上記職務の事務所はそれぞれの役員宅におく。

### 第 8 条 会議

この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は出席者の中から選出する。

1. 総会 毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
2. 理事会 必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

### 第 9 条 会計

1. この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2. この会の会費は、年額 1,500 円とする。ただし同一世帯に複数の会員がいるときは、2人目からは、年額 1,000 円とする。
3. 会計年度は、毎年 4 月 1 日から始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

### 付 則

この会の会則は、1984 年 (昭和 59 年) 8 月 26 日から施行する。

一部改正 1991 年 8 月 11 日、1994 年 5 月 21 日、2000 年 4 月 15 日  
2006 年 4 月 15 日、2007 年 4 月 14 日

## 2012年 総会・講演会・懇親会お知らせ

総会は当自然観察協議会の運営方針などへのご意見やご要望を会員の皆さまから直接いただき、審議のうえお諮りする場です。会員の皆様におかれましてはご多忙の時節とは存じますが、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

**日 時：** 2012年4月15日（日） 受付 午後12時半

**場 所：** かでる2・7（7階）720研修室

札幌市中央区北2西7 Tel 011-204-5100

《 総 会 》 受付：午後12時半から

議事概要： 総会：午後1時～2時半

- (1) 2011年度事業報告 (2) 2011年度決算報告・監査報告
- (3) 2012年度事業計画案 (4) 2012年度予算案
- (5) 理事・役員選出 (6) その他

《 講演会 》 受付 午後2時45分

講演会 午後3時～4時30分

演 題：『北海道での両生類・爬虫類の観察』

講 師：徳田 龍弘 氏

講演要旨：

北海道には19種類の両生類と爬虫類が確認されています。両生類や爬虫類は基本的に隠れ潜む生き物であるため、じっくり観察するには少しコツと知識が必要になります。例えば、カエルを観察するには繁殖期が一番見やすいのですが、見たい種類の繁殖期がどの時期で、どの時間に活動しているのかなどを、知っていると知らないでは出会える頻度が大きく異なります。逆にこれらの生き物に出会いたくない人もいるでしょう。そのような方も知識を持っていれば、見られやすい時期、時間、いそうな場所を避ければ出くわしにくくなることに繋がります。また、普段目にしにくい生き物だけに、接し方に困ることや、悪意がなくても生体にダメージを与えてしまうこともあります。また、ニホンマムシに代表される有毒種や移入動物についても注意点などを含めてお話ししたいと思います。

講師プロフィール：

1975年北海道札幌市生まれ。フォトグラファー、ライター。

ヘビを中心に爬虫類、両生類、野生動物を撮影する。野外での動物観察がライフワーク。北海道の爬虫類・両生類の研究も行う。日本爬虫両棲類学会会員、日本自然科学写真協会会員、獣医師。

主著・北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑

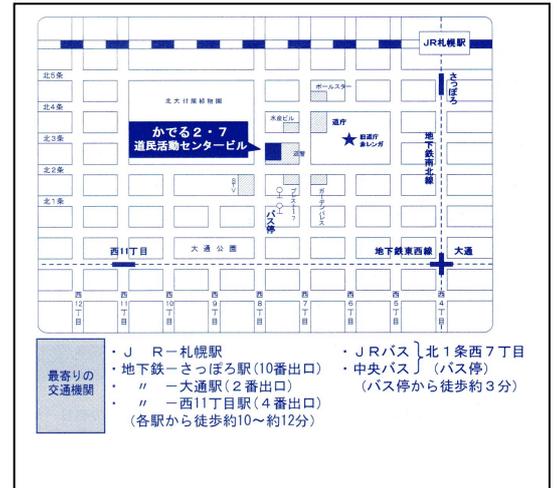
《 懇親会 》 午後5時～午後7時 ☆講演会講師の徳田氏がお出席くださいます。

場 所： 「丸海屋」 札幌市北区北6条西4丁目札幌パセオ地上西街 Tel011-213-5454

会 費： 3,000円（飲み放題） 申込締切：4月12日 会費は当日申し受けます。

総会・講演会・懇親会のいずれにご出席か4月12日までに事務局 須田へご連絡ください。

Tel/Fax 011-752-7217 E-mail [zan00711@nifty.com](mailto:zan00711@nifty.com)



## 2011 年度 講演会&忘年会報告

(2011.11.26 エルプラザ 15 時~17 時)

### 演題:「シマアオジ」と「台湾の鳥」 講師:渡邊智子氏



< 講演要旨 >

シマアオジ生息環境

国準絶滅危惧、北海道希少種  
生息環境、繁殖地と渡り

(メスとオスの越冬地が違ふかもしれない)  
(サケと同じように 同じ地に戻る=生息地を残すことが必要)

環境問題は日本のみでなく、他の国にも必要  
(環境悪化中国)

生態 シマアオジの生態: 鳴き声 (鳴いている時は雌ともうペアになっている) 鳴きまくっている雄=雌が居ないという証拠

シマアオジとアオジの比較

シマアオジの減少は自然環境劣化と、中国の食文化に起因するのでは?

台湾旅行

預かった盲導犬を見がてらの台湾の旅行で、野鳥を観察してきた

台湾の国鳥 カササギ

### 演題:「川の生物」 講師:酒井健司氏

< 講演要旨 >

河川に生息する魚類、水生昆虫などの水生生物の名前や簡単な生態を紹介すると同時に、それらが生息する河川環境や河畔林との関係についてお話します。例えば、河川における食物連鎖(網)は河畔林から供給される落葉と水中の石に付着する微小な藻類からはじまり、それがさまざまな形で水生昆虫の餌となり、さらに魚類へとつながって行きます。また、水生昆虫や魚類は川が作り出す多様な構造をたくみに利用して生活しています。

はじめに

河川における深刻な問題として河床低下があります。河床低下とは川底が掘削されることで、本来あるべき玉石などが流出し、岩盤が露出し、さらに岩盤さえも削られ川底がえぐれていることを指します。川の作用は、削る(浸食)、運ぶ(運搬)、貯める(堆積)の3つです。川は川岸や川底などを削り、土砂を下流側へと流します。また、谷斜面の崖が崩れることによっても土砂は供給されます。流れが緩やかになると、土砂は川底に堆積します。河床低下は上流側からの土砂の供給が減少し、浸食が進むことによって起こると考えられます。下流側への供給の減少はダムによる土砂の流出防止が大きく作用していると考えられます。また、河川改



修による川の直線化も、流速を早めることによって浸食作用を強化し、河床低下の一因になっていると考えられます。札幌では真駒内川の河床低下が深刻です。所によっては、河床には玉石がなく、岩盤(火山灰が堆積した札幌軟石)が露出しており、以前施された護岸がむき出しになっています。河床低下は単に水生生物の生息場所を奪うだけでなく、護岸が崩れたり、橋げたが掘削されるなどで、生物関係者や土木技術者や河川管理者などが危機感を持っています。

川床低下が水生生物に及ぼす影響は次のことが挙げられます。川底の玉石を掘って産卵するサケやサクラマス産卵場がなくなります。

カゲロウ、トビケラ、カワゲラなどの水生昆虫は主に川底に堆積した玉石に依存して生きています。玉石の表面や玉石間の空間は水生昆虫の生息場所であると同時に餌を採る場所になっています。例えば、ヒラタカゲロウの仲間は玉石の表面に生息し、そこに生える微小な藻を食べて生きています。ヒゲナガカワトビケラは石の間にネットを張り、上流から流れてくる有機物を捕捉して食べています。

さて、川はなぜ今日のような無様な姿になってしまったのでしょうか？原因は全て人間にあります。生活のため、よりよい暮らしのために営々と流した汗の結晶は豊かな生活をもたらしましたが、その代償として自然を損ない、川をいじめてきました。

また、川が生活と密接な関係を保っていた時代は過ぎ去り、多くの人にとっては関心の外におかれています。川がますます不健康になることに対する危機感は深まるばかりです。川の健康状態を回復させるには、まず川を体験して川を知ることが大切です。私は微々たるものですが「せせらぎスクール」を通じて川と触れ合う活動に協力しています。対象は幼児から大人までで、外国人も含まれます。せせらぎスクールでは「水生生物にとってどういう川がよいのか」、「水生生物による水質判定の方法」などを学びます。また、外国人（JICAの水道研修生）には、この川は毎秒何トンの水が流れ、半分使えば何人の生活用水が賄えるかななどを簡易に計算させます。

川で遊ぶ子供たちの姿をみることはまれですが、川に連れて行くと喜んで川の中に散らばります。「のぞきめがね」を手にとると、いつまでも川の中をのぞいています。玉石が転がっているだけの何の変哲もないと思われる川底ですが、実に様々な顔を見せます。魚が泳いでいます。あるいは川底で休んでいます。トビケラの仲間が石の間に張ったネットがみえます。砂粒や枯葉などをつむいだトビケラの巣がみえます。玉石の上に巻貝がいます。落ち葉がたまっています。玉石を拾って観察すると、表面に平らな体の小さな虫がいます。これはヒラタカゲロウの幼虫です。卵がビッシリと産み付けられています。これはシマウキゴリ（ハゼの仲間）の卵です。

トビケラについて少しお話をします。蛾と近い関係にあり、口から絹糸を出します。蚕と似ていますね。ある種は砂粒あるいは木の葉や木の破片を集め、絹糸で紡いで巣を作ります。あ

る種は川の中でネットを張り、その後ろに隠れてネットに引っかかった有機物を食べています。

魚について少し話します。子どもが拾った石にハゼ仲間のシマウキゴリの卵が付いていました。ウキゴリ類は群れをつくって海から遡上し、川で大きくなって川で産卵します。北海道にはウキゴリ、シマウキゴリ、スミウキゴリの3種類がありますが、ウキゴリやシマウキゴリは札幌近郊の川の中下流でよく見られます。

札幌の川の上流域は魚の種類が少なく、普通はハナカジカ、フクドジョウ、スナヤツメぐらいしかいません。昔はサケ、サクラマスなどが遡上したが、ダム（堰）が海と川を行き来する魚や川の中を大きく移動する魚の通路を遮断しました。結果としてあまり移動しない魚だけが残っていることとなります。ハナカジカは自然が豊かで水がきれいな川に生息しています。ハナカジカとフクドジョウは同じ場所に生息していることがありますが、川が人工的になるとフクドジョウは増え、ハナカジカが減る傾向がみられます。フクドジョウは酸素欠乏に弱いが、河川改修や水質汚濁に強い傾向がみられます。

北海道の淡水魚は生涯を淡水域で生活する純淡水魚が少なく、川と海の両方で生活する魚が多いのが特徴です。ですから、海と川の連続性が大切で、ダム（堰）には魚がちゃんと遡上できる魚道が必要です。

北海道のサケはサケ、サクラマス、カラフトマスの3種類です。サケは秋に遡上して川で産卵し、稚魚は翌春に海へ下るので川での生活期間は短いです。サクラマスは春から遡上をはじめ、夏は川の深みで越夏し、秋になると親魚は一気に上流に遡上して産卵します。稚魚は翌春には海に下らず、その次の年の春まで川で生活します。川に居る時間が長く、水生昆虫や陸上からの落下昆虫を餌にしているので、川の周りに木が生えていることも必要です。このように河川生活期間が長く、きれいな水に生息し、餌の虫が陸上からも供給されるサクラマスは川の健康状態のバロメーターであると考えられます。魚道の整備により、近年真駒内川でも9月末に産卵する姿がみられるようになりました。

北海道の川にいるカニはモクズガニ1種です。親は秋になると繁殖のために雌雄ともに川を下り河口から沿岸付近で産卵します。稚ガニは川を遡上して成長します。

カゲロウは「はかない」ものの代名詞です。成虫になる陸上生活に移りますが、ほとんどの種は口が退化し、餌を摂らず、水も飲みません。交尾・産卵しせいぜい数日で命を終えます。

カワゲラは大きなものは数センチあり、姿はカゲロウに似ていますが、いかつい感じがします。カゲロウとの簡単な見分け方ですが、爪先が二つに分かれていたらカワゲラ、一つならカゲロウです。

カワシンジュガイはとても長命の淡水二枚貝です。清流に生息し、100歳近くあるいはそれ以上生きるといわれ、河川環境のとてもよい指標と考えられます。繁殖にはヤマメの存在が不可欠であることも興味深いです。河川にダム

(堰)などができるとヤマメの親であるサクラマスが遡上できなくなり、その結果繁殖ができなくなって老貝ばかりの川が増えています。北海道には別にコガタシンジュガイがいて、こちらの繁殖にはアメマスの存在が不可欠です。

石の表面についている珪藻などの藻類は川の一次生産者(植物)ですが、川の上流域ではこれだけでは水生昆虫などの餌としては不足です。これを補うのが川の周りの河畔林から落ちてくる葉です。川にとっても海にとっても木々は不可欠な存在であり、川のまわりの林は食物連鎖(網)を通じて水生昆虫や魚や鳥や人などの多くの生き物を支えています。

## 演題:「放射線とは? 勝手に放射線を出して別の元素になって行く元素」

講師:元札幌医大医学部物理 山田大邦氏

福島原発後に環境に放出された放射性物質の中では、ストロンチウム(Sr)やプルトニウム(Pu)も検出されるが、東電の発表ではヨウ素(I) 59%、テルル(Te) 28%、セシウム(Cs) 10%などの揮発性物質が97%を占める形での放出で、チェルノブイリ原発事故の1~2割の放出となる大事故であった。

放射線には、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 線、中性子線、X線、などがある。原子核を構成している陽子と中性子の数の和(質量数)の中で、中性子の数が多くなると核が不安定になる。①原子番号の大きな元素(Puなど)は核内部から $\alpha$ 線が放出され、原子番号で2、質量数で4減少した別の元素となる。②原子番号の小さな元素(I、Csなど)では、中性子が陽子に変わり、 $\beta$ 線(電子線)を外に放出する(元の元素は原子番号が1増えた別の元素になる)。③ $\gamma$ 線は $\alpha$ 線や $\beta$ 線を放出した時に、未だ興奮覚めやらない原子核が安定になるまでに放出する波長の短い光である。これらは生体内の化学反応で起こる原子のイオン化のエネルギーに比べて5桁以上も大きなエネルギーを持っているので、体内に入る(内

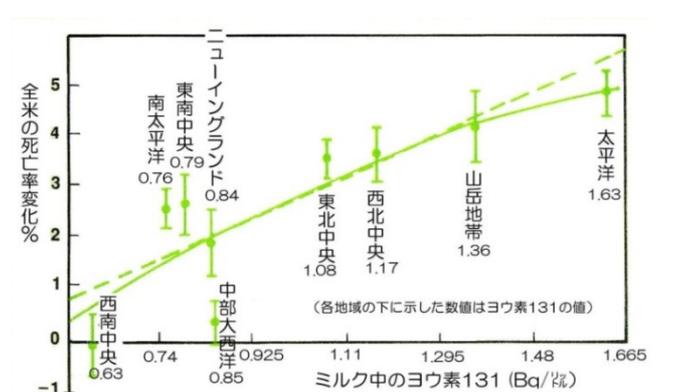


Fig.2-4 1985年5-8月と比較した1986年5-8月の全米各地域の死亡率変化とヨウ素131濃度の比較 「死に至る虚構」(ゴールド地)の図へ加筆

部被爆)とDNAを含め、ごく近くの細胞はイオン化され重戦車でなぎ倒されるほどの影響を受け、透過力の大きな $\gamma$ 線も細胞を壊すことになる。体外では $\alpha$ 、 $\beta$ 線は紙1枚、アルミ薄板1枚で止められるのだが。

放射線の強さベクレル(Bq)は、毎秒別の元素になる数である。吸収線量シーベルト(Sv)は生物体1kgに吸収されるエネルギーで、実効線量係数はBqからSvへ換算する元素毎の係数である。食品の暫定基準では食品を5群に分け、各群1mSvづつ全群で年5mSvとなる。穀物群の例としてCs-137を1kg当り500Bq含む食品も市販許可となるので、毎日、この食品を0.4kg(1日200Bq)食べると、年 $500 \times 0.4 \times 365 = 73000\text{Bq}$ となり、口から摂取する場合のCs-137の線量係数 $1.3 \times 10^{-8}$ (Sv/Bq)を掛けると、 $0.000949\text{Sv} = 0.949\text{mSv} \sim 1\text{mSv}$ となる。2012年4月からは全てで1mSvとなる新基準(一般食品1kg当り100Bq)で行う予定で、牛乳50Bqとなる。



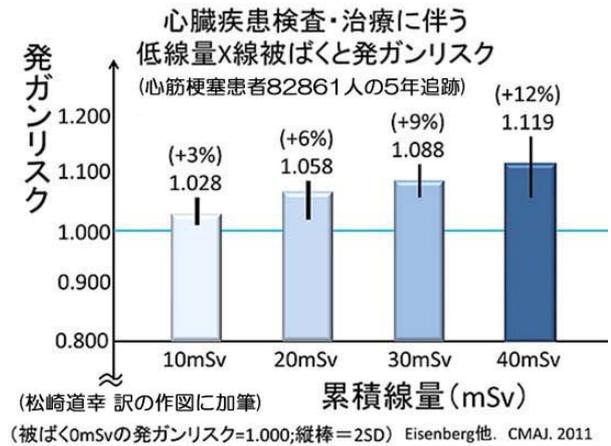
しかし、セシウムとヨウ素の違いはあるが、チェルノブイリ原発事故雲が届いた直後の米国で、雨が降ったカリフォルニア州（右図、右端の太平洋地域）では、牛乳 1 リットル当り 1.63Bq の I-131 が含まれていて、前年に比べ死亡率が 5%増加し、野鳥数も前年比 24%まで下落した。この例を見ても、1日 200Bq で年 1mSv（生涯で 100mSv）とする新基準は、内部被曝を軽視していることになる。

児玉龍彦氏（東大）は 7/27 国会証言で、前癌症状の「チェルノブイリ膀胱炎」状態では、セシウムは尿管上皮・膀胱に集まり、尿 1 リットル中に 2~13Bq の Cs-137 があり、福島での母乳からの検出量と同程度であると述べ、要注意である。

又、外部被曝であっても、カナダの心筋梗塞患者 8 万人の低線量 X 線被曝調査から、10-40mSv の被曝で有意に癌リスクが増加する（右図）。10mSv 毎に 3%増→1Sv で 300%増（原爆被曝では 1Sv で 50%増であるとしているので原爆の 6 倍）。（原爆被曝者調査からの）ICRP 基準

では、高線量被曝でも低線量外部被曝でも過小評価していることを示している。

チェルノブイリの汚染地帯と同程度の福島市・郡山市など年 5mSv を超える所は避難すべきと思われる。なお Cs-137 の半減期（物理的に半分の Bq になる時間）は 30 年であるが、排泄されて半分になる生物的半減期は 90 日ほどなので、Cs-137 を取り込んでも、汚染されていない食事を摂ることで被曝を低減することが出来る。



## 蝶の採集と保護 (2)

北大総合博物館昆虫ボランティア・元道立高校職員 青山慎一

最初に「学術的に貴重な種」という表現について検証してみよう。チョウに限って言えば、例えば大雪山のウスバキチョウなどのように天然記念物に指定されている高山蝶は気候依存種と呼ばれ、地球の気候変動や日本列島のファウナの成り立ちを証拠づける「生きた化石」として、存在そのものが学術的価値を持っている。

もちろんチョウに限らず昆虫類は生態系ではその大部分が第一次消費者として自然界における物質の循環やエネルギーの流れに重要な役割を担っており、価値の無い種など一つもない。ただ、学術的となると、記事に祭り上げられたギフチョウ、ヒメギフチョウ、オオムラサキ等については、愛好家に人気があるという以外には特別な価値があるわけではない。

つまり、この表現は中傷記事の正当性を誇張するために使われた無責任なものであり、読者に誤った情報や印象を与えたという点でその罪は軽いものではない。

次に「マニアの乱獲で絶滅寸前」という表現はどうだろう。「マニア」を国語辞典で引くと「趣味として何かを集めたり、何かすることに熱中している人」とある。

ところが mania を英和辞典で見ると、最初の訳は「躁病(精神病の一種)」となっており、maniac では「狂人」にされている。さて、一般の人たちは「マニア」という言葉をどちらの辞書で解釈しているのだろうか。

むかし「冬彦さんブーム」という言葉を生んだ TV のトレンドドラマを覚えておられるだろうか。佐野史朗演ずる医者冬彦さんはチョウの収集家であるが、その異常な陰湿さが逆に一種の共感をよんだようで、チョウの愛好家に対する誤ったイメージが造り上げられてしまった。また、「収集家」というと何か格調が高く聞こえるが、「コレクター」と英訳してしまうと同名のアメリカ映画を思い出して変質者をイメージしてしまう。

もし皆さんが国語辞典の解釈をしてくれるのであれば、愛好家などと言う言い方でなく「私はチョウのマニアックなコレクターです」と胸を張っていえるのだが。

ただ、残念な事に未熟な愛好家の中には「沢山採りたい」という一心から常識的なルールを破ったり、功名心のあまり検証が不十分なまま新種や新亜種の記載を平気で繰り返したりする人たちがいる。

そのため学者先生の中にはアマチュアというだけで不快感をもたれる方も少なくない。(念のために断っておきますが、北大の関係者ではありません) その内のお一人がある酒席でアマチュアの所業を悪様に酷評するので、ふ



ウスバキチョウの交尾  
1993. 7. 4 桂月岳 川田光政氏撮影

と意地悪な気分になり「先生、私も彼らと同類ですが」と言うと、彼はあなたは別だと言う。理由は私が学会の会員であり、幾つかの論文や報文を書いているから「アマチュアの研究者」なのだそうだ。

だがそれは彼の勝手な評価であって私は研究などしてはいない。趣味として昆虫を採集し、自然の遺産として標本を後生に残したいと思っているだけである。報文も結果であって目的などではない。彼らの考えでは、学会は良くて同好会は駄目。論文なら良いが採集記は駄目。ということなのだろうか。

昆虫採集に限らず、趣味というものは個人の人生や社会との関わりを豊かにするばかりでなく、より良い仕事をするための活力源でもある。学問ではないが、古い歴史を持った文化の一部だと私は思っている。話が脱線しそうなので、次回は「乱獲により絶滅寸前」という文書について検証してみたい。

## フィールドニュース

## FieldNews

### 晩秋の一日

#### せたな町 越野 邦夫

11月23日、小雪の降る中、樹齢50年余りを過ぎた杉、トド松林を散策してみた。

春と今回で2度目である。今年は天候に恵まれたせいか、色鮮やかな落葉に感激した。

カサカサ、ザッザッと落葉に詫びながら歩かせていただいた。満杯の水を黄色のトド松の葉先よりゆったりと流れ、湖面は水泡に光が……その輝きはことのほか美しかった(心が癒された)。

この様を目にし、今まさに私共により造られた数多くの工作物によって破壊された自然が泣いていることに気づき背筋が寒くなった。

改めてこれからの自然を守るためにはどのようにしなければならぬか「落葉ダム」から学んだ散策の一日でした。

### 道北自然観察指導員会の近況

#### 名寄市 吉田 清人

名寄市周辺に在住の指導員が集まり、この会が平成4年に発足してからまもなく20年を迎えます。

自然観察 101号(12)

この間、平成5年度から子どもたちの学校休校日にあわせ、会のメイン事業である小さな自然観察クラブがスタートし、現在も継続中です。平成10年度からは、観察クラブは文字通りクラブ制にし、年間会員に登録した子どもたちが毎月集まり、今年7月現在まで通算99回実施し、延べ1780名の子どもたちがエンレイソウを中心に春の花を観察しました。

6月は、親子参加企画として新緑の森を歩き、滝を見に行きました。初めて地元の滝を見た子どもの感動もさることながら、参加した保護者の感激も非常に大きいものがありました。

市内の隠れた名所として古くから知られている滝ですが、個人ではなかなか訪れる機会もないようで、子どもだけでなく、子育て世代へ向けても情報発信や参加する機会を提供していく必要性を感じました。

7月は小川で黒曜石の採取と川エビ採りを行いました。全員黒曜石を見つけ記念に持ち帰ることができました。川エビはその場でフライパンで炒め試食しましたが、あまりのおいしさに感動している姿が印象的でした。

今年6月に恵庭で開催された講習会に名寄から2名が受講し、久々に当会にも新指導員が加入しましたので、会の活性化につなげて行きたいと思います。

# ウオッチングレポート



石狩市 「石狩浜」 2011/5/21

参加者 一般 4名 指導員 5名  
天候 雨のち曇り 掲載紙

## 早春の海浜植物

前の晩から朝まで雨が降っていたため、参加者はいないのではと心配しつつ集合場所へ行くと、函館からの3名のグループがすでに探鳥していました。そして名古屋から旅行中の若い女性も加わり、参加者4名、指導員5名の観察会が始まりました。

イソスミレとハマハタザオの群落を見ごろを迎えていました。空にはチュウヒとトビ、川にはアオサギ、オオセグロカモメなど、草原にはノゴマ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ。そして声高くさえずっているヒバリでにぎやかでした。

砂丘では1cmほどの小さな丸いキノコのウネミケンボウズタケや、人形のような面白い形をしたヒメカンムリツチグリを見つけ、また自然豊かな浜にだけ生息するという日本固有種のイソコモリグモを探したりと、今にも降りそうな曇り空の下でしたが多様な観察会を楽しみました。

<与那覇モト子>

当別町 「医療大学薬草園」 2011/5/28

参加者 一般 15名 指導員 5名  
天候 曇りのち晴れ 掲載紙

## 春の花と新緑の木

医療大学の堀田先生の案内で薬草園と裏山をまわりました。薬草園は手入れが行き届き整然としています。先生は漢方薬が専門で、セイジやトウキの匂いを嗅がせて、その匂いが好きか嫌いかを聞いていました。必要とする体質の人はその匂いを好むそうです。

裏山は15年前にオオアワダチソウやササ山だったのを刈り取ったそうで、現在は斜面を利用した見本園と自然豊かな森になっています。新緑の森には野鳥の声が響き渡り、ノビタキの美しい姿を観察しました。林床はニリンソウなどが花盛りで、湧き水が流れる谷にはエゾノリュウキンカの葉が生い茂っていました。ユーモアを交えた堀田先生の語り口に笑いの絶えない楽しい観察会でした。

<与那覇モト子>

札幌市豊平区 「森林総研」 2011/6/5

参加者 一般 15名 指導員 3名  
天候 晴れ 掲載紙

## 初夏の森林総研

今年は樹木園に時間をとった観察会になりました。園内は同じ種類の樹木が隣り合って植えられているので、仲間同士の木を比べて、違いを見つけるには都合のいい場所です。

エゾヤマザクラとミヤマザクラ、ミズナラとコナラ、エゾマツとアカエゾマツなどを比較して識別のコツを掴むことができました。

樹木園から森へ入ると、オオバナノエンレイソウの群落地でしたが、残念ながら花も終わりでした。その代わり森を出ると、アカエゾマツの真っ赤な花が、枝の先一面に、まるでクリスマスツリーのように付いていたので、その美しさにみんなで見惚れていました。

今日は天候に恵まれ暖かく、良い観察会でした。

<畑中嘉輔>

札幌市北区 「屯田防風林」 2011/5/22

参加者 一般 15名 指導員 4名  
天候 曇り 掲載紙

## 身近な林で…

朝から曇り空の天気でしたが、暖かな一日でした。観察会は二班に分かれてスタート。ドイツトウヒの雄花、直立した紅紫色の雌花。ヤチダモ、オオアマドコロ、エゾタンポポの小群落、オオタチツボスミレ、レンプクソウ、マイヅルソウ、自生種と思われるシロヤナギの大木。途中、防風林で雪虫(トドノネオオワタムシ)の研究をしている山田氏より、雪虫の観察と生活史についての話。雪虫とアリはとても仲良しとのことでした。

ミズバショウ、エゾイタヤ、ミズナラ、クロユリ、エゾエンゴサクとオオウバユリの群落などの開花を観察することが出来ました。

<池田政明>

**札幌市清田区 平岡公園 11/6/12**

参加者 一般 6名 指導員 1名  
天候 曇り 掲載紙

**人工湿原の変わる様子を見よう**

野鳥の巣立ちが始まり、カラス・ヒヨドリ・シジュウカラ・ヤマガラ・ハシブトガラ等の幼鳥がエゾハルゼミに負けじとうるさい位の鳴き声。湿地ではコンロンソウ、サギスゲ、エゾノヒツジグサ、ヤナギトラノオ、オオカワトンボ、ヨツボシトンボ、モイワサナエ、とエゾイトトンボの産卵が観察できました。林地ではミズキ、アズキナシ、サワフタギ、ギンリョウソウ、サルメンエビネ、エゾカンゾウ、コケイラン、トケンランそしてヤマシヤクヤクなど、最後にホウノキの花に顔をうずめ…幸せな気分解散しました。

<佐藤佑一>

**札幌市中央区 円山公園 11/7/17**

参加者 一般 8名 指導員 2名  
天候 曇り一時雨  
掲載紙

**円山登山**

時々小雨の生憎の天気も、一般登山者も少なく静かな山道。

時おり匂って来る、シナノキの香りを楽しみながらの観察会。

この冬の大量の枝折れで明るくなった林床に、去年まで見られ無かったキツリフネの大発生。わずかに咲き残るウリノキの花。ヤマゴボウ、オオウバユリなど、雨に濡れた緑の中の観察会でした。

<山形誠一>



**参加者の声**



**旭川市 (11/8/13) 突哨山のコウモリ**

**旭川市 高田 静江**

8/13 (土) PM4:00 旭川・突哨山駐車場に集まり、そこから5分ほど行った森の入り口に場所を移し、資料を見ながらコウモリについてと突哨山の歴史や現在の森の様子を解説していただきました。

動物園でしか見た事がなかったコウモリを捕獲観察できるというのでワクワクしながらの参加でした。主にヒメホウヒゲコウモリとカグヤコウモリについて、ねぐら場所や分布について詳しくお話くださいました。カスミ網を張っての捕獲実技はとても興味深かったです。超音波を出しながら飛翔するという事で、レーダーが音を捕らえます。とても興奮しました。

1 個体ずつ丁寧に実測しながら説明してくださり、じっくりと観察する事ができました。ところどころで現在の森林の様子と、人の手を入れられない樹木の比較など話してください旭川市民の皆さんが常に自然と向かい合い生活されているのを真近かに感じられました。お世話くださったスタッフの皆さま 本当ありがとうございました。

**北大構内 (12/1/9)**

**札幌市 定岡 時子**

雪の観察は初めてでしたが、身近にあるが故に考えてもいなかったことが説明により改めて、雪の不思議な魅力を感じました。雪の結晶にもいろいろな種類があることに驚きました。

**苫小牧北大研究林 (12/1/15)**

**苫小牧 大井 遼介**

観察会を終え、家で暖をとっている時、「森は生きている」というミュージカルを思い出した。理由ない罪を晴らすため、酷寒の森で花を探すという物語だ。観察会は鹿のフンにオスとメスの違いがあること。樹木の種子が今、雪に眠って春大地に根付くこと。野鳥、小動物、樹木、虫たちがたえまなく命のやりとりを繰り返すこと。エゾリスが出迎えと、見送りをしてくれたこと。指導員の人の柄のにじみでる説明も加わって、森の声、森の物語は心地よい。今日のなによりの体験は「森は生きている」ということだった。なにより体験、酷寒の森が生きているということだった。

## 会計からのお願い

忘れていませんか 会費の納入を！！

2011年度の納入がまだの方は、同封の振込用紙(払込取扱票)でお願いします。

- ・年度会費は 1,500 円です。
- ・未納の方には、金額を入れた振込用紙を同封しています。
- ・既に入金済みの方には、振込用紙を同封しておりません。
- ・通信欄は、住所変更等の近況報告にお使いください。
- ・差支えがなければ、メールアドレスを記入願います。

※退会の申し出があるまでは、北海道自然観察協議会の会員です。

届出が出されるまで会費の支払いをしていただきます。

※郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



## ちょっと写ん歩



### イヌコリヤナギ

バッコヤナギのごろんとした芽と異なり、細く枝に垂直気味に立っている。

芽の成長とともに立ち上がってくるが、中の芯の色がだんだん赤く染まってきて、遠くから見るとポッと火が着いたキャンドルのようにも見える。早春の野に灯る明かりのようだ。

(村元 健治)



**【事務局便り】**

☆2012年総会および講演会が4月15日(日)、かでの2・7(7階)720研修室で開催されます。ご出席をお待ちしております。詳細は総会ご案内をご覧ください。

☆2012年度全道研修会が6月9日(土)～6月10日(日)「静狩湿原と北海道南西・南端の植物」マイクロバスにて周遊。詳細・お申し込みは同封のチラシをご覧ください。

☆ <北海道フラワーソン2012>のお誘い。6月16日(土)、17日(日)の2日間、北海道全域で野の花の一斉調査をします。野草に関心のある方なら誰でも参加できます。雨天決行。複数チームを作っているいろいろな場所でやってみませんか。北海道自然観察協議会として参加します。希望の方は事務局までお問い合わせください。

☆みなさまのお力添えをいただいて実施された自然観察指導員講習会の次期開催は、2013年度に滝野すずらん丘陵公園「青少年山の家」の予定です。今から、講習会のお誘いをお願いいたします。

☆観察会追加・変更の連絡は、観察部山形・広報担当岡田・事務局須田、観察会報告は観察部山形へお願いします。

**【理事会だより】** <理事会議事録から抜粋>

☆理事会

◇第4回 12/1/11 札幌市エルプラザ

- ・2011年度事業報告
- ・救急救命講習会について
- ・選考委員会について
- ・ホームページ管理者について
- ・2012年総会について

◇第5回 12/2/2 札幌市エルプラザ

- ・2011年度会計中間報告は会報101号に掲載しない。会計決算を102号に掲載する。
- ・2012年事業計画について 観察会予定、研修会(全・地方)、忘年会&講演会、救急救命講習会、2013年総会など。
- ・<北海道フラワーソン2012> 北海道自然観察協議会参加
- ・北海道自然観察協議会のホームページは、4月より画面を新しくして、観察会報告を数人で入力する方針です。



北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768  
 会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461  
 観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5 自然観察101号(15)  
 Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail [streamy@estate.ocn.ne.jp](mailto:streamy@estate.ocn.ne.jp)

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14  
 Tel/Fax 011-551-5481 E-mail [seichi.y@jcom.home.ne.jp](mailto:seichi.y@jcom.home.ne.jp)

退会、住所変更の連絡は 事務局 須田 節 札幌市東区北40条東9丁目1-13  
 Tel/Fax 011-752-7217 E-mail [zan00711@nifty.com](mailto:zan00711@nifty.com)

事故発生等緊急時は  アスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部長代行 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30 Tel 011-694-5907

表紙写真 与那覇モト子

自然観察101号(16)



自然観察2012年3月15日/第101号 年4回発行  
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会  
編集 北海道自然観察協議会編集部